

中北.com

地域教育情報紙

中北教育事務所
地域教育支援スタッフ

チウホクドットコム

TEL 0551-23-3046

FAX 0551-23-3013



中北の地域社会 (COMmunity) の心の交流 (COMmunication) をめざします

令和元年度 第1回中北地区 地域教育推進連絡協議会 開催

6月20日(木)、多くの学校関係機関、社会教育関係機関の方々の出席を得て、第1回中北地区地域教育推進連絡協議会が北巨摩合同庁舎で行われました。峡中地区と峡北地区、それぞれに置かれていた教育事務所が平成18年度に統合され中北教育事務所となっても、これまで協議会はそれぞれの会則に則り別々に開催されてきました。しかし昨年度の協議会において両地区の組織を再編・統合することが決定されたため、今回の協議会は、「中北地区地域教育推進連絡協議会」として新しいスタートを切った最初の協議会となりました。峡中地区と峡北地区の組織が統合されたことで、より広い範囲の地域教育の情報が共有されて地域間の連携が深まり、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支える仕組みがより深化することが期待されます。



協議会において決定した本年度役員の方々は以下の通りです。

中北地区地域教育推進連絡協議会

会長 太田 充 氏 (昭和町教育委員会 教育長)

副会長 小林 仁 氏 (甲府市教育委員会 教育長)

副会長 長田 英和 氏 (北巨摩公立小中学校校長会会長 韮崎市立甘利小学校 校長)

副会長 中島 智子 氏 (甲府市小中学校PTA連合会会長)

急速に進む少子高齢化や地域の人間関係の希薄化といった社会の変化を背景に、社会教育を基盤とした自主的・自発的に学ぶ人づくり、住民の相互学習を通じたつながりづくり、地域に対する愛着や帰属意識の喚起といった地域づくりが求められています。協議会ではその目標へ向け、中北地域全体の教育機能の向上、学校・家庭・地域社会の連携の促進、家庭教育への支援、学校の教育活動への地域の活力の導入・活用等に取り組みながら、地域教育の推進や市町村教育委員会への支援を図るという本事務所の地域教育連携事業の目的が共有されるとともに、今年度の事業計画や地域教育に関する情報交換が行われました。



中北.com no.2 コンテンツ

p1 第1回中北地区地域教育推進連絡協議会

p2 第1回中北地区地域教育推進連絡協議会研修会

p3 山梨英和中学校・高等学校

八田保育所・八田小学校・八田中学校

P4 やまなし少年海洋道中

社会教育関係団体による表彰

家庭・学校・地域の力で青少年の健全育成を

～第1回中北地区 地域教育推進連絡協議会 研修会～

甲府少年鑑別所 首席専門官 外川 江美 氏

第1回中北地区 地域教育推進連絡協議会終了後には、甲府少年鑑別所の首席専門官 外川 江美氏を講師に、「非行の発生原因と立ち直りに必要な支援～家庭・学校・地域の力～」と題した研修会が行われました。外川氏は平成2年に法務省に入省後、法務技官として少年鑑別所における非行少年の心理査定、少年院や刑事施設における処遇計画の作成や集団療法などに取り組み、平成29年4月より甲府少年鑑別所に勤務されています。今回の研修会では、少年保護手続きから、統計にみる非行少年の変化、そして非行からの立ち直りや少年鑑別所の地域援助についてお話いただきました。以下はその要旨です。



少年保護手続きについて

警察に逮捕された非行少年はまず警察署の留置所などに勾留され捜査がなされます。その後、事件は家庭裁判所（以下、家裁）に送られ、家裁は少年に観護措置が必要かどうか、すなわち少年鑑別所で専門的見地から少年が非行に至った原因等を調べる必要があるかどうかを決定します。家裁に送られた少年事件の内、少年鑑別所への収容が必要とされるのは約1割。つまり非行を犯した少年のほとんどは逮捕から10～20日経てば家庭や地域に戻るため、その立ち直りには家庭や地域、学校の力が必要となります。また、少年鑑別所とは家裁での審判に備え、面接、心理テストなどを実施して少年に対する理解を深め、少年の処遇方針について検討する場であり、家裁での審判後に送致され、自宅や地域での更生は難しいと判断された少年の矯正教育を行う場である少年院とはその役割が異なります。

統計に見る非行少年の変化

非行の第4のピーク（平成半ば頃）の特徴は、「群れない・いきなり型」非行であると言われています。犯罪白書平成17年版（全国の少年院の法務教官を対象に調査した結果の報告）からは、人に対する思いやりや人の痛みに対する理解力・想像力に欠け、その場の好き嫌いなど、感覚や感情で物事を判断するとともに、対人関係を円滑に結ぶスキルが身につけていない現代型非行少年の姿も浮き彫りになっています。

非行からの立ち直り

非行から立ち直った少年の特徴として、家族に肯定的な感情を持ち、家族からのサポートを感じていること、学校や職場など、社会生活上の適応を維持できており、それを支えてくれる大人、喜んでくれる家族がいること、真摯に向き合い、受容的に接してくれる人がいること、さらに自分は無力ではなく、困難があっても立ち向かっていけるという自信を獲得しているということがあげられます。子どもの健全な育ちには、親自身が健全な生き方のモデルとなり、学校や仕事に適応できるよう実質的な支援を行うとともに、子どもがありのままを受け入れてもらえ、情緒面での支えとなる家庭が必要です。さらに心理的・経済的に厳しい親が少なくない中、物心両面から親をサポートし、家庭の機能不全を補うとともに、子どもにとって拠り所となる居場所を提供する役割を、地域が果たしていくことが求められています。

1時間45分を超える外川首席専門官の講演の後には、参加者から熱心な質疑が行われ、「様々な関係機関が一堂に集まり、少年の非行防止等、一つの共通事項について議論をするということは大事なことだと感じた」といった感想をいただくなど、大変有益な研修会となりました。

笑顔・勇気・感謝が私たちのチアスピリット！

～山梨英和中学校・高等学校 ダンス同好会～

6月15日（土）、山梨英和中学校・高等学校体育館にて、同校ダンス同好会の高校生が講師となり、小学生にチアダンスを教える「チアダンス体験講座」が行われました。この講座は21歳以下の学生や生徒が「先生」となり、普段の学習の成果を地域に還元する「山梨県生涯学習センター U-21 チャレンジ講座」の一環で、今回は21名の小学生を対象に、7名の高校生が指導を行いました。入念なストレッチの後、タブレットを使って今日の振り付けを紹介、その後は両手を高く伸ばして「勝利」を表すVictoryのV字を作るハイ（High）Vや、両手を下ろし逆V字を作るロー（Low）Vといったチアリーディングの基本ポーズから、丁寧な指導は始まりました。2011年に活動を始めた同校ダンス同好会には約50名の生徒が



所属し、週に3回、部員たちでメニューを考えながら練習していると言います。今回チアダンスを教えることで伝えたかったのは、笑顔・勇気・感謝のチアスピリット。応援することで見ている人を元気にするチアダンスの魅力を小学生に理解してもらうためには、どのような言葉を使おうか、どんな表現なら伝わるか。今回、普段の教えてもらう立場から教える立場になったことで、高校生たちは「伝える」ための言動を工夫したと言います。「楽しんでもらえてうれしい」と語る部員たちの言葉からは、元気のかけ橋となった大きな喜びが伝わってきました。

地域ぐるみで災害に備える

～南アルプス市立小中一貫校八田小中学校・南アルプス市立八田保育所～

6月26日（水）、南アルプス市立小中一貫校八田小中学校と南アルプス市立八田保育所が合同で避難訓練および引き渡し訓練を行いました。学校区が一致する八田小学校と八田中学校の両校が、南アルプス市教育委員会から小中一貫校として位置づけられたのは今年の4月。義務教育9年間を見通した系統性や連続性のある教育課程の下、両校の間では学習指導や生徒指導などにおける協力や異学年生徒間の交流などが活発に行われています。今回の合同避難訓練もそうした連携の一環であり、さらに中学校に隣接する八田保育所がこの合同避難訓練に参加することで、地域ぐるみで防災対応能力を高める狙いもあると言います。合同避難訓練が行われるのは今年で3回目、八田中学校では、予測が難しい地震などの自然災害時に自らの命を守る行動の重要性を理解した生徒たちが、真剣な表情で体育館に避難しました。その後、迎えに来た保護者に引き渡しが行われましたが、保育所に通う弟妹を持つ生徒は先生の誘導で保育所に向かい、そこで保護者や弟妹と合流。家族で災害時の行動について話し合いながら、避難経路やその安全性を確認する様子が見られました。



八丈島ででっかい体験！

～山梨海洋道中 参加内定者抽選会・事務連絡会～

「やまなし少年海洋道中」とは、県内の中学生を対象に、8泊9日の日程で、洋上生活体験や八丈島における自然体験活動を行うものです。活動全体を通して、友情・連帯・責任・奉仕の精神を涵養するとともに、地域リーダーとしての資質向上を図ることを目的とし、心豊かでたくましい青少年の育成を目指しています。今年度のテーマは、「八丈島・でっかい体験2019」で山梨県内中学生50名(男女各25名)を募集しました。



6月2日(日)「やまなし少年海洋道中」の参加内定者抽選会・事務連絡会が甲府市のことぶき勸学院にて行われました。今年度も定員以上の応募者があったため抽選で参加者を決定する予定でしたが、辞退者が出たため希望者全員が内定者となりました。

今後、事前研修会等を実施し、いよいよ8月1日より8泊9日の八丈島の研修に望みます。生徒は貴重な体験の中、一回りも二回りも大きく成長して、戻ってくることでしょう。

社会教育関係団体総会で表彰

～社会教育の振興・発展に貢献～

人口の減少やコミュニティの衰退による社会的孤立といった社会的課題を解決し、人生100年時代に誰もが生涯にわたって学び続けることができるような社会の実現に向け、これまで以上に社会教育の果たすべき役割は大きくなっています。そんな中、山梨県社会教育関係団体の総会が相次いで行われ、社会教育の振興に対する功労について表彰が行われました。

6月12日(水)、山梨市民会館にて行われた山梨県公民館連絡協議会定期総会では、公民館振興発展に貢献し、その功績が顕著であるとして、中北地区からは以下の2公民館および7名の個人の皆さまが表彰されました。

甲斐市 竜王南部公民館、 敷島公民館

八巻 俊六 様 (韮崎市 韮崎公民館 館長)
望月 正澄 様 (韮崎市 穂坂公民館 館長)
小澤 篤子 様 (韮崎市 清哲公民館 主事)
雨宮 由紀子 様 (甲斐市 竜王北部公民館 社会教育指導員)
小林 京子 様 (甲斐市 竜王南部公民館 社会教育指導員)
岡田 みどり 様 (甲斐市 敷島公民館 社会教育指導員)
最上 郁子 様 (甲斐市 双葉公民館 社会教育指導員)



一方、6月14日(金)に甲斐市敷島総合文化会館にて行われた山梨県社会教育委員連絡協議会の通常総会では、7～8年といった長きにわたり社会教育の振興に貢献し、その功績が顕著なものとして、中北地区からは4名の皆さまが表彰されました。

柴田 健一 様 (甲斐市) 末木 高美 様 (甲斐市)
小池 公昭 様 (昭和町) 枡形 昭平 様 (韮崎市)